

第62回 定例基礎棟セミナー

「忍び寄る新興・再興感染症 —我が国の防疫最前線—」

演者

国立研究開発法人
国立国際医療研究センター(NCGM) 研究所
熱帯医学・マラリア研究部 部長

狩野 繁之 先生

WHOは「マラリア世界技術戦略2016-2030」として、患者数、死亡者数を15年間で新たに90%削減する目標を掲げた。わが国はグローバルヘルスへの関わりの中で、この世界のトレンドに寄り添う貢献が望まれているが、まずは渡航医学の喫緊の課題として、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのインバウンドの感染症対策として、マラリアだけでなく、あらゆる輸入新興・再興感染症の適切な診断・治療・予防体制を構築しておかねばならない。今、日本にはどのような感染症の危機が迫っているのか、いかなる対応が望まれているのか、私の所属するNCGMの対応例を紹介して共に考えたい。

日時

2017年11月29日 水

午後17時30分から

場所

シミュレーション講義室
(教育医療棟7階)

どなたでも聴講できます
事前予約の必要はありません
参加費は無料です

主催:獨協医科大学
お問い合わせ:0282-87-2133
担当:公衆衛生学講座 中西